

## 学生の皆さんへ

いま、国会では「安全保障関連法案」が審議されています。そのなかに、11の法案が含まれていますが、これらが成立すると、これからの日本は他国の戦争に簡単に加わることが出来る国になってしまいます。

現政府は、きちんと歯止めを掛けていると主張していますが、戦争に踏み出す余地を大きく広げることになるこれらの法案に「平和安全法制」という、逆の名前をつけています。これは本質を分かりにくくし、私たちが真剣に考え、議論することを妨げようとしているかに見えます。

法案の中味の危うさはもちろん、このように、言葉をごまかして誠意ある説明を避けようとする政府の姿勢がはらむ危険性を、私たち和光大学の教員有志は見過ごすことが出来ないと考え、別紙のような「声明」を発表しました。

学生の皆さん、他人事と考えたりせず、皆さんが拠って立つこの社会の「基盤」が危うい方向へ地崩れを起こしていることを、しっかり見つめください。皆さんが、この問題について深く考えてくださることを切に願っています。

---

## 政府提出の「安全保障関連法案」に反対し、廃案を求める声明

2015年6月23日

和光大学 教員有志

現在、国会で審議されている「安全保障関連法案」について、私たちは、次の理由から強く反対し、廃案にすることを求めます。

第一に、この法案によれば、日本国憲法上認められているのは個別的自衛権のみであるという、これまでの政府見解の歯止めをもなくし、日本が攻撃を受けていなくても他国が攻撃を受けて、政府が「存立危機事態」と判断すれば、いつでも、どこにでも自衛隊を派遣することができるようになるおそれがあります。

第二に、この法案は、これまでは紛争地帯の非戦闘地域に限られていた支援を、これからは軍隊に物資を補給して戦争の継続を支える“兵たん”活動も担うとして、戦闘地域と非戦闘地域を問わず自衛隊を派遣することができるようにしています。

これら2点は、日本国憲法9条に違反し、二度と戦争をしないと誓った憲法の本質を根本から破壊するもので、容認することはできません。

さらに第三に、この法案が成立すれば、現在私たちとともに学び合っているキャンパスの若者たちのみならず、多くの若者たち、未来の若者たちが戦場に派遣され、戦争に巻き込まれるおそれがあります。

私たちは、大学を構成する人々とともに、この法案の危険を広く大学内外に訴え、廃案を求めます。

呼び掛け人 15名

伊藤武彦、上野隆生、内田正夫、梅原利夫、加藤三由紀、小関和弘、坂井弘紀、佐治俊彦、杉本昌昭、竹信三恵子、田村景子、堂前雅史、徳永貴志、森下直紀、山本由美

賛同教職員 78名

青木裕依、秋野由美子、網野真木子、新井卓、石川公彌子、石坂雅文、石鎚佳奈、磯利香、岩間剛一、岩本陽児、上野俊哉、内田俊郎、遠藤朋之、太田拓児、太田まり、太田素子、大塚由美子、大西公恵、岡田友希、奥井裕、加藤巖、川間哲夫、木村重樹、倉方雅行、栗原秀幸、小島夕季、五所法子、斎藤淳、坂元真理、佐藤勲、佐藤克久、佐藤実、澁谷利雄、白幡信代、杉浦郁子、瀧桂子、瀧口優、滝沢玄、詫摩昭人、立野貴之、塚越尚美、辻真梨子、津田博幸、常田秀子、手嶋孝典、永石尚子、長尾洋子、中嶋由夏里、西川諒、野中浩一、野々村文宏、長谷川明香、馬場淳、林春雄、原田大輔、半田滋男、樋口弘夫、深沢眞二、深澤靖幸、深海久美子、藤田直哉、前田保、松枝到、三上豊、水間将治、宮下聡、向井宏一郎、家市結花、八代華子、山崎英壽、山下暁子、山中ちひろ、山本ひろ子、吉野誠、余田真也、渡辺邦夫、渡邊未来、渡辺優子 以上